

会議等経過報告書

1. 件名	令和元年度 第1回 大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和元年5月30日(金) 午前10時00分～午前11時50分
3. 場所	大船渡市民文化会館(会議室)
4. 出席者	委員：上関みさ会長、藤村敏夫副会長、今野隆弘委員、江刺由紀子委員、山崎友子委員 図書館：金野館長、水野補佐、森係長

会議等の内容

1 開会(進行：水野補佐)

委員出席状況の確認。川村委員の欠席を報告した。

2 会長挨拶(上関会長)

図書館は文化の中心であり、市民のサポート役だと思えます。市民が使いやすい図書館となるよう、皆さんから忌憚のない意見をいただきたい。

3 館長挨拶及び職員紹介(金野館長)

今年度も2カ月が過ぎ、おはなしパレードや、ブックスタート、移動図書館車かもしか号の運行など各種事業をスタートしております。図書館の利用促進や読書推進に向けて、今年度は、各事業のPRにも力をいれて、より多くの方にご利用いただくよう努めて参りたいと考えております。

本日は平成30年度事業の状況などをご報告するとともに、今年度の資料購入計画などについてご協議いただきます。

(今年度の図書館職員を紹介した。)

4 報告

報告第1号 平成30年度図書館事業の実施状況及び利用状況について

報告第2号 平成30年度図書館資料購入(所蔵)状況について (森係長説明)

■(上関会長)

毎回この協議会では、利用者の減少が大きな話題になる。図書館でもいろいろ取り組んでいる。利用者のグラフを見ると年々減少はしているが、一人当たりの貸出し冊数は横ばいではないかと感じた。

(江刺委員)

利用人数は延べ人数なので、同一人物がカウントされている。原因が人口減少にあるとしてもどこの施設の利用状況をみても同じく減少している。利用者数を増やすのも図書館の大きな目標の一つではあるが、来館した方にいかに居心地よく過ごしてもらうか、また来たいなと思ってもらうことも重要だと思う。

■(上関会長)

資料10ページの成果及び課題に、より使いやすい環境の提供について検討する必要があると挙げられているので、具体化して取り組むことで利用者増に繋げていければと思う。

今年度が始まって2カ月が経過したが、新たな取組等があれば報告いただきたい。

(金野館長)

新着図書で紹介で、新着図書の背表紙を写真に撮り、カウンター付近に置くようにしたところ、足を止めて見てもらうようになった。

また、新着図書の購入頻度を上げて、どんどん新着図書コーナーで展示する回転を早めたところ手にとってもらうことが増えている傾向にある。テンポよく展示を変え、また時宜に併せた企画展を実施することで、利用者増に繋げていきたいと思う。

若年層については、スマホなどITの発達で情報の入手が容易にできること、あるいは学校の課外活動などで多忙であることなど、読書離れが進んではいるが、図書館の環境づくりということで、昨年10月に実施したアンケート結果を踏まえ、蓋付の飲み物の持ち込みを可としたほか、クッションの貸出しを行い、利便性を向上させている。

■（江刺委員）

一方通行ではなく、利用者との相互のやりとりが大事だと思う。キャッチボールできていると、利用者はうれしいのではないかと。その一つとして、アンケートとその反映状況を、大きく掲示してはどうか。見せることで、相互のやり取りになるのではないかと。

また、企画展がさまざま実施しているが、図書館を市民の図書館関係の発表の場に、というのはどうだろう。例えば、おはなし室などを活用できないか。おおふなぼーとでは、市民が市民に進める本を展示している。市民のアピールの場としての図書館、ということもよいのではないかと。

■（上関会長）

利用者図書館との双方向でのやりとりを、今後、業務に活かして欲しい。

報告第3号 令和元年度図書館事業計画について （森係長説明）

■（江刺委員）

事業計画はほぼ例年どおりとなっており、一方で司書は産休中で職員は昨年度に比べて1名減となっている。働き方改革ということもある。この人数でしっかり大事な部分をやっていくために、似たものは一緒にやるとか、省略できるところは省略するとか、既存事業の見直しを図り、効率よく進めながらも事業を減らしていくということも、全体からみればプラスになるかもしれないという感想を持った。

■（上関会長）

産休中の司書の補充は無いのか。

（金野館長）

司書の補充はない。そのため、図書購入の選書は、今のところ、前任の図書館係長に応援をもらっている。また、職員の1減については、図書館職員が年度末に退職したが、人事異動のタイミング上、補充が間に合わなかった。今年度は、臨時職員の増で対応している状況であるが、図書館業務は専門的な面もあり、状況は厳しい。既存事業を見直し、事業の統廃合も必要と考えている。

■（上関会長ほか）

そういった考え方でよいと思う。

■（今野委員）

現在の移動図書館車はもう20年近くになるが、更新の目処はたったのか。

（金野館長）

予算が問題となっている。もう更新時期に達しているが、全体予算や優先度からなかなか移動図書館車に予算が措置されないのが現状である。但し、学校や、高齢者施設からの需要も多く、また、容易に図書館に来られないという方も多くいるので、今後も財政局へ予算要求していく。

■（今野委員）

学校巡回で貸出し数を確保しているという現状もある。そこもよく考慮してもらいたい。

■（山崎委員）

昨年度アンケートした際に、検索のパソコンを図書館の奥にもおいて欲しいとか、あるいは、中高生より小学生の利用が多いわけだが、検索システムを利用して、探している図書になかなかたどり着けないと寄せられていた。大人でもなかなかたどりつけないこともある。できるだけ早く対応して欲しいと思う。

■ (上関会長)

対応をお願いしたい。
今年度の事業計画について、意見はありませんか。

■ (藤村委員)

利用者数や貸出冊数は分かるが、来館者数は分からないのか。
子ども達は、遊び場があるところに行く。自由に本を手を取れるところに行く。市立図書館はそういった点では難しい。但し、企画展示や約1,500冊の除籍等など、本を見直しているということがわかる。その辺りも常にアピールしていくことが重要である。企業だと、お客様の声ということで意見や回答を店頭には貼り出している。このようなPRも今後必要なのではないか。

(金野館長)

来館者数について、カウンターが壊れてしまい、修復に相当の費用がかかるらしく修復にはいたっていない。また、子どもの遊び場、居場所としての図書館のあり方については考えていきたい。

■ (江刺委員)

児童室の畳スペースに、静かにできるパズルなどを置いてはどうか。滞在時間が延びるのではないか。

■ (上関会長)

アンケートで、「子どもの足音がうるさい。」という回答があった。ただ、居場所というのは大事だと思う。難しいことだと思うが、ぜひ検討をお願いしたい。

■ (江刺委員)

BGMをかけて欲しいというのものもある。先進事例で発表されるような図書館はBGMをかけているところが少なくない。また、BGMをかけると足音や、子どもの声とか、椅子を引きずる音などが緩和され気にならなくという効果もあるようだ。

(金野館長)

BGMがあった方が良い人と静かな環境が良い人とそれぞれあると思う。今の情報も参考としたい。一方で、著作権の使用料だけでなく、著作権使用の申請事務が新たに生じることなどを考えると、なかなか導入に至ることができないというのが現状である。

■ (上関会長)

来年度になると思うが、どの事業を見直したか、どの事業に重点を置いたか、力を入れていくか、そんな計画を出してもらいたい。

5 協議

協議第1号 令和元年度図書館資料購入計画(案)について (森係長説明)

■ (江刺委員)

職員が減り、図書の予算は変わらない中で、選書と図書の購入は心配していた。年間の図書資料購入予算600万円から計算すると、月約50万円分の購入が必要となるが、今年度2カ月が経過し、既に70万から80万円分を発注しているということで安心した。毎月、計画的に図書資料を購入していくことについて、しっかりと進めて欲しい。

その他、意見はなし。議長、退任。

6 その他

アンケートに寄せられた意見等への対応について

■（上関会長）

クッションはどこでどのように使っているのか。

（水野館長補佐）

この3月末から貸し出ししている。カウンターに話してもらい館内で使ってもらっている。クッションの貸し出しについては、館内に表示を出しているが、より周知いただけるよう考えていく。

■（江刺委員）

読みたい本の部分だが、小学生の英語教科が始まってくるので、簡単な小学生用の英語の本などは需要があるのではないかと。

■（藤村委員）

普通の読み物と英語そのものを学習する本や、英語で書かれた日本のお話の絵本など、そういうものを並列しておく、より手にとってもらえるのではないかと。学校の図書館も、そのように変わってきている。

（水野館長補佐）

参考とさせていただきたい。

大船渡市読書感想文コンクールの持ち方について

■（藤村委員）

「学校現場は多忙で、先生方の負担が多くなってきている」は、学校現場・大船渡地区学校図書館協議会で出た意見である。

学級毎に、読書感想文を子ども1人について1作品書かせる。担任はその中から、市コンクール応募と県青少年コンクール応募とに分けて指導する。中には、教務主任から差戻されて再度指導する、ということもある。学校現場は、市のコンクールと県のコンクールと、2つに出すということに負担感を感じている。

今年度は従来どおりとし、来年度から改革できるのであれば、学校図書館協議会でも話してみたいと考えている。

■（江刺委員）

現場の意見が一番だと思う。（事業を）やめるのは大変だが、やめる勇気も必要。

■（上関会長）

他の地区では、学校から直接、県（青少年）コンクールに提出しているところもある。二重応募の問題があったと思うが、そこはどうか。

（金野館長）

県教育委員会に確認したところ、小中学校については、二重応募としないという方針とのこと。高校は、二重応募となるとのことである。（事務局の見解の違い）

■（上関会長）

以前勤務した地区では、現役の先生が、市と県とへそれぞれ応募する。当市では審査委員は現役教師ではなく、その審査員が市・県と区分するのはどうかと思う。

市で今後も審査を行うのであれば、県へ挙げる選考を担う審査員の責任や負担が大きくなり、大変だと思う。

（金野館長）

市コンクールを廃止とした場合、県コンクールへは、学図協が主体となって選考することにな

るのか。

■（藤村委員）

各学校から挙がってくる段階で選考されており、その作品がそのまま県へ行くこととなる。

市のコンクールが廃止されれば、現場教師の指導の負担も半減することになる。

しかし、これまで行ってきた市コンクールを廃止しても良いのかという声もあり、6月の学校図書館協議会でも議論になると思う。

7 閉会